

第1回 鴨川市前原横渚海岸周辺の魅力づくり推進委員会 会議録

■開催日時・場所・出席者

日時 : 令和元年5月22日(水) 午後2時00分から午後4時00分まで

場所 : 鴨川市役所4階大会議室

出席者 : 以下のとおり

【出席委員】

No.	氏名	備考
1	鈴木 健史	(一社) 鴨川市観光協会 会長
2	藤巻 武仁	(一社) 鴨川市観光協会 副会長
3	中橋 健二	鴨川シーワールド 営業推進支配人
4	久根崎 達郎	鴨川温泉旅館業協同組合 専務理事
5	菅原 明善	(一社) 鴨川市青年会議所 副理事長
6	渡辺 淳一	城西国際大学観光学部 教授
7	橋詰 良子	地域おこし協力隊
8	岡野 大和	公募による市民
9	川上 周一	公募による市民
10	大内 洋	公募による市民

【欠席委員】

No.	氏名	備考
1	福田 雄一郎	鴨川市商工会 前青年部長
2	浅田 朋靖	鴨川市商工会 青年部長
3	徳山 英樹	鴨川市漁業協同組合 総務部長

4	立野 健児	鴨川ライオンズクラブ若獅子支部
5	原田 洋美	NPO 法人鴨川ガイド協会 理事
6	鈴木 淳	学校法人文理開成学園文理開成高等学校 理事長・校長
7	水谷 好伸	鴨川ライフセービングクラブ 会長
8	川井 幹雄	鴨川サーフィンクラブ 会長
9	村永 信吾	鴨川市健康づくり推進協議会 会長
10	内山 達也	城西国際大学観光学部 准教授
11	林 良樹	公募による市民
12	庄司 修	公募による市民

【業務委託請負業者】

No.	氏名	備考
1	刈込 信道	鴨川観光プラットフォーム株式会社 事業推進統括
2	豊島 まゆみ	豊島まゆみ事務所 代表 鴨川市プロジェクトマネージャー

【市行政関係者】

所属・職	氏名	備考
鴨川市建設経済部長 兼商工観光課長	佐久間 達也	事務局
鴨川市建設経済部 商工観光課長補佐	小柴 則明	事務局
鴨川市建設経済部 商工観光課長補佐	矢代 忠恭	事務局
鴨川市建設経済部 商工観光課 観光振興係長	影山 光一	事務局

鴨川市建設経済部 商工観光課 新たな観光づくり係長	濱野 和明	事務局
---------------------------------	-------	-----

■配布資料

- ①次第
- ②席次表
- ③本年度の検討課題等について（豊島まゆみ事務所提案資料）
- ④文理開成高等学校空き教室提供について（事務局提供資料）
- ⑤オフィスイメージ（川上委員提供資料）
- ⑥外国人観光客獲得に向けた調査事業【地方創生推進交付金】（事務局提供資料）
- ⑦地方創生推進交付金実施計画【抜粋】（事務局提供資料）
- ⑧フィッシャリーナ図面（事務局提供資料）

■会議要旨

1 開会（午後2時00分）

2 委員長あいさつ（渡辺委員長）

昨年度からの主な動きはフィッシャリーナの開発であり、これは、市民会館から駅にかけてのエリアが計画どおり進まない状況の中、できることを先にやろうということで、検討した結果、ハード事業の予算を今年度に回して、フィッシャリーナの整備をすることとなった。

今後、何をやるかについて、ビーチコートなどの案がでてきている中で、民間を導入しながらできるのかどうかという点と、同時に市民会館周辺をどのようにしていくのかということも昨年度末の課題となっている。

もう一つの課題は、本事業終了後、補助金が終わったから終わりではなく、皆が集まって何か出来る場所をつくるということ。例えば若い人たちが起業できる環境が、文理開成高校の理事長の協力により教室の使用の許可をいただき整備に至った。

サーフィンクラブにおいては、サーフィンの受け入れができるということで、試験的にサーフボード等を購入し体験事業を行った。

プラットフォームが、分離している事が課題となっており、強化していく必要がある。

駐車上の有料化を視野に入れるなど、今年は、結論から言うと、民間を入れ活用していくアクションを起こし、民間の視点で一年後に成果が出たと言えるようにしたい。これまで十分に行ってきた調査研究はもういいと考える。

【自己紹介】

佐久間部長 人の流れをつくる、投資してもらえ環境を整備していく。

刈込統括 民間の方々の意見を伺う機会は重要。協力をいただきながらがんばっていききたい。

【議事録署名人】

委員長から、本日の会議の議事録署名人として、川上委員及び鈴木委員が指名された。

3 議事

(1) 本年度の検討課題等について（豊島まゆみ事務所）

前回の会議でエリアの整備については、とにかく出来るところからやるということであった。

A フィッシャリーナエリア

アクティビティーとしてマリンスポーツ等については、フィッシャリーナ周辺が実施しやすいということで、マリンアクティビティはフィッシャリーナ側に寄せる。後背地については、地質調査を行った。3月の会議で、平川部長から「駐車場と芝生広場を整備する方向性を、市議会にて説明しているとのことであった。

ロングボードやウェット置き場、カフェなどの機能を備える。

B プロムナード

ショップを育てていくエリアとなる。

C 市民会館周辺

ライブラリー、カフェのような感じで、女性が多いという鴨川市の特性に着目し、女性が訪れやすい環境をつくれば良いのでは。宿泊者にはもう一泊してもらおうような場所づくりを行う。

委員長から、インキュベーション機能がないと育たないといった意見あり。

最後にマルキポイントについても駐車場の有料化を図るなど整理していきたい。

【事業化方針について】

ターゲットについて、一年目、二年目から少し異なってきている。

亀田病院には、一日3000人が訪れる。そういった方々が1時間でもお茶をして帰っていただく。鴨川の特長である、多くの地元女性を対象とする。また、CCRCに来られるシニアの方、所得層が比較的高い方などもターゲットとしたい。ターゲットの比率については、地元7、観光客2、企業向け1という構成。

ブランドとして、若者や女性が住み続けたいようなスタイリッシュな形にしたい。こういったものをつくるかということで、昨年ビーチスポーツという意見が出ていた。ただし、ビーチコートをフィッシャリーナに設置してしまうと、面積をとられてしまう。また、どれだけ集客できるかという点で、厳しいとの意見もあり、誰でもアクセスできる場所にしようというもの。

【主な意見】

予算は、5,700万円以外にあるか、4月中旬に市と協議をした。市の財政では、捻出することは厳しいとの回答。行財政改革を進める中で、最初から全てというのではなく、現予算の範囲でできることから整備していくしかない。

5月14日以降は、毎週火曜日に打ち合わせをしている。スケジュールどおり進めないと年度内にフィッシャリーナの整備が完成しない。

9月上旬に議会に報告、12月に条例改正、フィッシャリーナの一部の土地所有者である漁協との調整など課題が残っている。

どの範囲までを今年度に行うかということを決める必要がある。市としては、6月末までに方針を決めたい。

プロジェクトマネジメントにおいて測量は済んでいる。早期に民間参加者を捜し、遅くとも7月上旬までには委員会でもとめる予定。

フィッシャリーナ後背地の使用できるの面積は、2分の1なのか、4分の1になるか未定。将来性を見込みながら基本設計に着手する。

8月中旬まで、基本設計を提出、都市建設課確認、議会で説明、年度内に運営を開始したい。

問題点としては、10月以降までに 誰が運営・管理をするのか？プラットフォームか、委員会内からなのか決めることが重要。

文理開成高校の空き教室改修工事について、市が教室の使用貸借契約をすることとなった。改修については学生も参加してもらい、6月中にコワーキングスペースとして整備する。2年間実施予定。

誰か常駐する人を決めたい。本来フィッシャリーナ側だが、文理開成の空き教室が稼働したら、週2程度で、プロジェクトマネジメントメンバーを置き、オープンオフィスの日を設置したり、プラットフォームによるコワーキング、コリビングのツアーをつくっていくという形。

【文理開成の活用について】(小柴補佐説明)

チャレンジショップに取り組んできた。平成29年度に空き家調査を行っている。物件調査において1店舗見つかったが、活用は難しい状況。現在進行中であり、地域住民のヒアリングを行いながら調査を継続して行っている。

そうした中で、昨年度、文理開成高校から、空き教室を活用してよいとの申し出があり、推進協議会でも話合いましたがIT企業などのコワーキングスペースなどに活用もあるのではと検討をさせてもらった。

主体については、プラットフォームが借りた方がよいとの意見もあったが、無償貸与という形なので、契約については市が行うという形で進めている。

提供してもらえる教室は、4階406号室、海が見えるロケーションのよい環境。

利用期間については、試行的な取り組みでもあるので、推進交付金の計画範囲内、令和2年度までということで調整をしている。それ以降については、効果的で活用が可能であれば継続して借りることも考えられる。利用時間については、学校のルールに添った形で契約をさせよう。

学生への安全配慮が必要。第三者に貸す形になるので、借主については十分精査していく。

常駐体制については、プロジェクトマネジメントチームから週2日程度の方向。できるだけ常駐が望ましいのでしい今後調整していく。

市の取り組みについて、説明が必要とのことで来月6日ころまでに、ロングホームルームというかたちで説明していく。

【QRAGE オフィスについて】(川上委員)

学校側で音の出る作業は3時以降に行うなどいろいろ制約がある。6月21日から、タイルカーペットを貼り返す。いろいろな方の協力を持って皆で楽しく張替作業を進めたい。眺めが良いスペースであるが、ネット環境整備に伴い壁に穴を空けるなど苦労がある。避難口やトイレがある。校舎の一番端なので生徒に迷惑がかかりにくい。

▼豊島：

隣は、ロケに使用している教室で普段は使用していない。比較的過ごしやすい場所となる。

常駐もそうだが、事業化するにあたり、関係者の皆さんにコワーキングを是非見に来ていただき、皆

さんの知恵を借りて2年間、試行していきたい。ご協力をお願いしたい。

【投資環境の構築】

資産運用やまちづくり支援をするK社の見解として、鴨川シーワールドといった目的地が一つしかない気がする。また、飲食が町のなかに点在しているといった見解。これらを踏まえ楽しめる場所に編集していくとの話があった。

投資について、何が対象になるか、何が提供できるのか、具体的に示していく。市長と平川部長には伝えてあり、また検討することになっている。

フィッシャリーナ後背地について、土地の所有関係、契約条件が見えるようにという話があったので事務局から説明をお願いしたい。

【事務局説明】（矢代補佐）

基本測量を発注した。その際、漁協の土地に入ることになるため、漁協の参事に相談に行ったところ、土地を使うことは構わないが、定置網の網干場の代替地を探してほしいと要望があり、代替地について調整がとれていない状況。組合とは早急に詰める。

排水の流す先については、道路反対側に側溝を確認した。状況によっては、道路を掘って排水管を敷設する必要がある。フィッシャリーナ歩道に沿って150mmの水道管が敷地の内に入っている。シャワーなどで水量が必要となっても十分対応できる。

【意見等】

▼川上：

砂浜を活用した観光協会の取組と、海辺の取組も並行して連携が必要。駐車場も同様。確定要素が少ないので、後々、自由度が上がるようような、あまり予算を使いすぎないような形にしたい。

▼藤巻：

ただコンテナを置くイメージしかないが、そのあとの活用イメージが具体的に見えない。

▼鈴木：

自由にできるお金はない。こういった状況において民間投資が鍵。人を集めることができないものには民間は投資しない。練りに練ったものが民間同士によって実現してくのだろうと思う。我々は、民間投資をしやすい環境をつくってあげることだと思う。そうすれば、お金がないというのもクリアできる。人が集まるという不安も解消できる。市や我々が、リスクを背負わなくて済む。地域づくりのノウハウのある民間投資を促す。

▼久根崎：

海太郎周辺スペースの利用について、県との調整が可能か。それを含めて検討してよいのか。

県の所有地を駐車場として使用できると後背地の活用の可能性が広がる。

▼渡辺：

漁協との調整は去年のこと。なぜ今更こんな話をしているのか。

市民会館は土地利用が定まらないからフィッシャリーナへと移行した。漁協と調整が必要であり、漁協がうんと言わなければ絵が描けないわけで、まったくわからない。持ち帰っての繰り返し。行政としてできないとなったら進まない。早急に進めてほしい。民間のスピード感からすれば潰れている。土地の関係をクリアしてほしい。

▼鈴木：

県の土地は今は何の用途であつたらよいか？

▼矢代：

公共用施設用地となっているので、駐車場はおそらく可能。

▼鈴木：

アスファルトでなくても芝という方法もある。

▼矢代：

芝は駐車用の養生が必要となり、逆に高くなるのでは。

▼豊島：

確認すべき要件を洗い出して確認してもらったうえで交渉を進めてもらいたい。

▼鈴木：

県の土地が使用できるなら、使用できない漁協所有地スペース分は網羅でき、自由度が増すのではないかな。

▼川上：

調整の結果を頻繁に情報共有しないと見えてこない。

▼渡辺：

建物を建てずに駐車場として使用するというので、漁協、県との調整は2週間くらいで可能か。

▼佐久間：

当該地は、過去漁協に買い取ってもらった経緯がある。手を入れるには、原則漁協から買い取る事となるので、現状では対応しかねる。5,700万円の中で漁協所有地も含めて整備はできないと考えている。

▼鈴木：

いつ解消するか？漁協の土地と市の土地で条件を分けたうえで民間投資を探していけば良いのでは。

▼渡辺：

買い取ってほしいとのことであれば、場合によっては借りるという形で、建物を建てずに2段構えでいくのはどうか。

▼川上：

鴨川市がどこまで使用してよいか？

▼豊島：

この委員会では将来性のビジョンを記すということ。川上委員と最低限必要なリストを作成し受け漏れが無いよう市と調整する。事業コンセプトに基づき試算していく。

▼佐久間：

当該地は、都市建設課が公園用地として管理している。行政財産なので、所管変更を行うといった内部の調整をしているところ。

▼久根崎：

県とやり取りする際に、RVパークとして使えるかも聞いてほしい。県はまったくダメとは言わないと思うが、有料化して使用できるか確認をお願いしたい。

▼鈴木：

これから具体的にどう落とし込んでいくかを決めていくと思うが、良質な日常といった目的を見失わないようにすべき。特定の人しか楽しめないのではだめ。RVパークは否定しないが全体がRVパー

ク化してしまうのはどうかと思う。

▼橋爪：

イメージが湧かない。全体的に何ができるか不明。鴨川の若い子と話すとカフェがあると良いとは聞くが、公園？カフェ？スポーツ？ショップ？・・・何にしたら良いのか。

▼豊島：

構造物は今年は難しい。空間づくりのみ。マリンスポーツを始められる場所。

▼渡辺：

われわれは全てやるべきではない、民間を入れるのであれば、民間の内容に合うようにしPRする。

▼藤巻：

試験的にキッチンカーをやってみたら集客できるのではいか。

▼川上：

売店組合とも連携していくべき。そうしないと魅力が倍増していかない。

▼渡辺：

土地問題が解消しなければ、今回の予算は無理に使用すべきでないと考えている。

▼岡野：

マルキの駐車場から亀田ヘリポートまでの用地を市に預けてよいとの噂あり。有料化に向けて交付金を活用することは可能か？

▼小柴：

実施計画に基づいた使途での活用となるため、使用できない。

▼佐久間：

管理するとなると条例整備が必要。駐車場の管理についてはタイムズなどへの民間委託も有効。

▼矢代：

管理しなければならないとなると、全て市の予算で対応することになる。

▼久根崎：

マルキ駐車場の有料化について、川名県議が、県に確認したところそれほど難しいことではないとのこと。

▼渡辺：

今回の交付金予算はマルキ駐車場には使えないということがわかったが、何らかの形での有料化を図り、整備してもらえば良い。

▼鈴木：

予算がつかないとしても、これだけ収支の見通しができていれば、金融機関から融資を持ってこれるのでは。

▼橋爪：

目的に向かって進めていくことが普通であるが、スポーツクラブに向かって行くのか、行かないのかわからない。ゴールが決まっていないのに辿りつかない。

▼鈴木：

マルキ駐車場は別の議論となっており脱線してこの話になった。

▼久根崎：

目標を立てるにも権利関係がはっきりしないと理想も言えない。早急に確認し調整すべき。

▼豊島：

誰のための計画なのか。誰が計画を立てるのか。この場で相談してほしい。

▼渡辺：

誰がというよりは、民間を引っ張ってきて行うものだと考えている。民間にとって魅力的な基盤整備などは市が行うという形と考えている。

▼久根崎：

市民のためであれば 市民が主体、市が総責任者ではないか。

▼鈴木：

枠のなかで民間投資をしてくださいというのが市。市が職員を動員して店番をやるということではない。枠づくりをこの委員会で検討すべき。実際やる人間は、リスクをおかし、継続的に行える人に任せていくべき。

▼豊島：

5 年間の中で、結果を一つでも出し、5,700 万円（コンテナ込み）を活用して、民間や市のためになる人材を導入していくこと想定しながら事業計画を作っていくという認識。

▼岡野：

交付金を受けているのでプレッシャーの中、2 年間でできるが不安。今の権利関係等、行政に関することは時間がかかるのではないかと思う。公共性が高く、集客もまだの未成熟な事業をプラットが受けるのは体力的に難しい。社会事業的な民間しか参入して来ないのではないか。営利関係者は来ないと考えられる。

▼鈴木：

公共と決めつけられないほうがよい。とにかく良質な日常があって、人が集まる場所にしたい。儲けていただいて結構。我々ではノウハウがないので、その部分は民間が判断する。5700 万円は、民間を呼んでくるためのインフラづくり、基盤投資に使うべき。

▼豊島：

今年プロジェクトマネジメントの費用内で、基本設計に係る会社に声をかけている。

▼岡野：

具体的に絵を描くことはしないほうが良いのではないか。市がやりたいこと、ゴールの絵だけを描いておけば良いのではないかと思う。委員会がどこまでやるかを議論すべき。

▼渡辺：

民間投資の形は去年出来上がっているべきだが、至らなかった。民間リストはできているか？市が全部行うことは無理であり、民間の儲かる仕組みを取り入れて市が運営していくという形をとっていくには、実証型を広げていき儲かるとアピールしていく。

▼豊島：

2 社ほどいる。しかし、積極的に出したいというものではない。

▼渡辺：

土地関係がクリアになって、民間が魅力がないと判断したのであれば、社会事業的な民間にという考えで良い。まだ民間と交渉をしていない状況。

▼鈴木：

ノウハウのある民間ができないものを我々ができるわけではない。

▼渡辺：

方向性としては、シーワールドに来たお客が、少しお茶が飲める場とスポーツができる場をつくるということで、これに民間が採算性を判断するしない別として、あまり大規模でないものを考えていく。

▼小柴：

交付金については、今後活用できる形の最低限の整備として、交流広場となるフィッシャリーナ整備にしつかええない。土地の売買について漁協と交渉できていないが、整備自体は漁協には承認済み。

漁協も委員会議に出ておりダメというわけではない。駐車場と芝生といった形で検討いただきたい。

▼佐久間：

5,700万円では、漁協の土地まで含めた大きな開発はできないだろう。

▼久根崎：

代替地の候補となっている県（南漁）の土地も占用について結論はでていない。市の土地と漁協の土地も使用できないと話にならない。確認してから検討しましょう。

▼豊島：

日程を調整する。市民会館は代替案がないと動かない。プロムナードをどう活用するか、市民会館跡地の活用方針は、今年の内には議論したい。ただし、年度前半はフィッシャリーナをどう動かすかという点に注視して行うこととしたい。予算はここまでとなっている。民間投資の可能性はゼロではない。充分な環境整備ができる状況ではないのでスロースタートとなりそう。

▼鈴木：

充分な環境とは？

▼豊島：

土地関係、箱もの、いわゆる物件関係。

▼渡辺：

市としては、予算の中で何をするかというところが大事なのはわかるが、その前に何をするかという整理が重要。民間活用が絡まない中で整備するというのが不安。民間ではどういう形でできるのかを聞いてほしい。また、県の所有地の活用も考慮して、土地の権利関係、民間投資状況、特に土地関係は一ヵ月以内にはっきりさせないと間に合わない。委員会は毎月開催して詰めていく必要がある。とにかく、市だけの土地しか触れないというのは分かるが、これが妥当かどうかという民間からの返答（評価）がないままではまずい。民間は何をしたいかを聞くべき。

▼久根崎：

花火大会の際、市民会館トイレが使用できない 夏のトイレが充分ではない。解放できないか。

▼小柴：

基本的にトイレの箇所は足りていると考えている。

▼矢代：

市民会館トイレは開放できない。耐震性が十分でないため貸し出せないと管理当局の話である。

▼藤巻：

市民会館前駐車場は有料化できないか。

▼佐久間：

無料で占有使用している。全体を見ての有料化。土地は国有地であり、今までは払い下げが原則だっ

たが、国の方針の変更もあり、国有地を有料化することについて可能性はあると国から言われている。

(2) 外国人観光客獲得に向けた調査事業（濱野係長）※プロジェクター使用

仮説の一つとして「香港」をマーケットとした海外の販路拡大について、ソフト面での受け入れ環境の整備を図る。

▼藤巻：

香港の人口は？（7,450 千人）規模が小さすぎる。

▼鈴木：

販路をエージェントに決めつけていないか。すなわち団体客に的を絞っていないか。個人客であれば、どこでも良い。

数年前に、旅館関係で調査したとき、ターゲットは個人客向けであった。個人客であれば、むしろ日本人よりお金を使ってくれる。マナーが悪いのは団体客。ツールは SNS。鴨川にも英語のプロモーションビデオはあるが、誰がどういう視点で作ったものか、長すぎる。飽きさせない 3 分間が一般的。日本人が日本人のためにつくったものになりがち。ポイントを捉え外国人の目線で作成する。現地の人向けではないものを作ってしまう。旅館組合としては、エージェントを推奨していない。個人客はウェルカム。ネット配信すればどこの国でも良いはず。

▼久根崎：

ここまでの案をつくる前に、専門の関係者がいるので、相談しながら、意見を聞きながら 540 万円を使うべき。そうしないと良い効果はでない。こういうやり方を変えていって欲しい、あえてこの席で言わせてもらった。

▼渡辺：

ロジックは正しいが、全体から見るとなぜ香港なのか説明がつかない。仕事を出す側の理屈では。お客側の理屈ではない。

▼鈴木：

県の発想ではないのか？担当者がエージェントを通じて客数が数えられるから。個人客は数えられない。団体対象となっていると思うが、鴨川市のニーズに合っていない。

▼渡辺：

具体的にどのようにやるかというところを関係者に相談してやってほしい。香港というロジックは止めて欲しい。同じことを海辺でやってもだめ。行政として良くて、現実的には無駄。我々は鴨川を良くしようとして、そこで戦ってきている。

▼豊島：

無印パスポートについて、アクティブで中国 4 2 0 万人、台湾 1 2 9 万人、香港 3 5 万人となっている。アクティブでも 20%から 30%あるので、ダイレクトマーケティングができる。

▼渡辺：

観光コンセプトが何かというと、非日常性の形であって他地域と差別化するにはどうしたらいいかということ。理屈から言うと団体旅行は相手にしない。鴨川市を差別化するため、デザイン空間を提供する。間違っても駐車場をコンクリート整備するだけではない。統一的なイメージがつくれていないから差別化できない。

▼川上：

地図の後背地の道挟んで細い部分の用途は？ヤシが立っているところ。活用できないか。ハンモック

などもおもしろい。

▼矢代：

公園区域である。過去、使用料をとってキッチンカーが出ていたが、県の指導により許可がされず締め出した経緯がある。市民会館周辺は国有地であって、公園区域として維持管理している。

▼豊島：

規制も劇的に変化している。最新の状況を確認する必要あり。

▼川上：

地域としてバーベキューやビーチボックスなど、膨らんでいき、お店や地域で活かしていけるばんやのようなものに駐車場が活用できるのでは。

▼岡野：

江見地区のみなさんが、海岸清掃用のビーチクリーナーを製作している。良いものであれば、横の繋がりで貸してもらいなり、取り入れていくと良い。大きな動きができないようなら、周りで既にやっているものに助けてもらって取り入れる。例えば、観光協会のビーチボックスも工夫して砂浜の景観づくりに、また、バーベキューについてもウッドデッキを敷くだけでイメージアップに繋がるのでは。やり手はいる。やれるところからで

(3) 空き店舗等の情報提供及びチャレンジショップの開設支援事業（小柴補佐）

空き家改修については、紹介できる物件がない。空き店舗等を自分で探してもらうということも想定している。開設支援について整理していくので6月に状況を報告する。

○次回は、日程を調整してから連絡する。

- ・委員変更のお知らせ 商工会青年部長 浅田朋靖（商工会清水さんが変更）
- ・金融関係から千葉銀行の方をアドバイザーという形で入ってもらうように調整する。

4 閉会（午後4時00分）

鴨川市附属機関等の会議の公開に関する実施要領第7条第3項の規定により、会議録の内容について確認します。

令和元年5月24日

鈴木 健史

川上 周一